

「市民の森」のあり方について

令和7年9月
光市

目 次

1	はじめに	1
2	現状	1
(1)	主な関連計画	1
(2)	「市民の森」の主な施設	1
(3)	近年の利用状況	4
(4)	「市民の森」に関する市民意向	5
3	課題	10
4	基本方針	11
(1)	基本的な方向性	11
(2)	今後の予定	12

1 はじめに

室積の千坊・大峯山にある「市民の森」は、荒廃森林の回復と森林利用の促進を目的として、主に昭和 50 年代前半に整備した生活環境保全林です。

造成から半世紀近くが経過した現在、植樹した木々は大きく成長し、緑豊かな森林が再生されています。

一方で、森林の利用促進に関しては、この間の社会情勢やライフスタイルの変化などに伴い、森林に対する市民の意識等が変化していると考えられることから、このたび、市民の意向調査等を行い、これからの「市民の森」のあり方について検討して、ここにとりまとめました。

2 現状

(1) 主な関連計画

「市民の森」に関連する主な計画は次のとおりです。

表-1 主な関連計画

計画名	概要
第3次光市総合計画 (令和4年3月)	「身近な森林の中での森林体験や健康の増進、体力づくりなど、 <u>市民に親しまれ、利用される森林づくりに努める</u> 」としており、主要な事業例に「 <u>市民の森自然観察林の整備</u> 」を挙げています。
光市景観計画 (平成26年2月)	南部地域における景観形成の目標と方針の一つに「 <u>良好な景観が望める展望地の維持</u> 」を掲げ、主な景観資源の一つに「 <u>千坊・大峯山（コバルトライン、萩の平）</u> 」を挙げています。

(2) 「市民の森」の主な施設

「市民の森」の主要施設は、主に昭和 50 年代前半に整備されており、多くの施設が老朽化しています。12 か所の森における主な施設等は次のとおりです。

表-2 施設の状況

森の名称	面積 (ha)	整備 年度	特徴	主な施設等		年間維持費 (千円/年)※
				植樹樹種	その他	
四季の森	1.2	S53	花木により四季を感じられる	アセビ、ウツギ、アベリア、アジサイ	遊歩道	490
紅葉の谷	1.1	S52	モミジやカエデの紅葉が楽しめる	ノムラカエデ、アメリカフウ、ヤマモミジ	遊歩道	400
萩の平	1.6	S53	夏に萩の花が彩る展望台からは瀬戸内海を望むことができる	ヤマザクラ、キョウチクトウ、ハギ	駐車場 東屋	1,590
自然観察道	0.8	S62	歩きながら植物や地形などの自然が観察できる	ハダ、クチナシ、ハギ	遊歩道 ベンチ	650
市民の森	0.6	S50	頂上から瀬戸内海を望むことができる	クスノキ、タブノキ、ヤマモモ	広場、 遊歩道	470
幸いの森	0.8	S53	遊歩道から瀬戸内海を望むことができる	アベリア、アジサイ、シャリンバイ	遊歩道 藤棚	450
野鳥の森	1.5	S51	森林の中に設置された東屋で休憩することができる	クロガネモチ、ヤマモモ、ナンテン	遊歩道 東屋	960
関伽の池	0.1	S51	池や周囲に配置された植栽の風景を楽しむことができる	ネズミモチ	池 遊歩道	80
やすらぎの広場	0.6	S51	頂上の広場から瀬戸内海を望むことができる	ヤマザクラ、ソメイヨシノ、アセビ、マメツゲ	広場	400
コバルト台地	0.3	S52	瀬戸内海に浮かぶ多くの島々を望むことができる	ヒラドツツジ、マメツゲ、サツキ、イチョウ	駐車場 ベンチ	880
いこいの森	1.8	S52	緑深い森に包まれた遊歩道を歩くことができる	ヤマモモ、ヤマモミジ、サルスベリ、シイ	遊歩道	260
かおりの森	0.5	S52	四季を通じて樹木が漂わす香りを楽しむことができる	キンモクセイ、クチナシ、サザンカ、カリン	—	60
合 計						6,690

※ 年間維持費：草刈（年1回）に係る費用と主要施設の更新に係る費用の1年あたりの平均額



図-1 「市民の森」案内図

※「市民の森」は、室積千坊・大峯山にある 12 か所の森（四季の森、紅葉の谷、萩の平、自然観察道、市民の森、幸いの森、野鳥の森、関伽の池、やすらぎの広場、コバルト台地、いこいの森、かおりの森）の総称です。

(3) 近年の利用状況

「市民の森」は、年間を通じて、ウォーキングやドライブ、森林浴や自然観察等のレクリエーションあるいはオリエンテーリングなど、様々な目的で幅広く利用されています。

また、「市民の森」を活用した定例的なウォーキングイベントなども開催されており、毎年、多くの方が参加されています。

近年開催された主なイベントは次のとおりです。

表-3 「市民の森」を活用した主なイベント

行事名	利用箇所	行事概要	参加者数
梅まつりコバルト・ウォーク	萩の平 幸いの森	「梅まつり」の期間内に行うウォーキングイベント ※令和6年度以降は「さくらウォーク」に統合して開催	311 人 (令和5年度)
コバルト探訪 ウォークラリー	萩の平 コバルト台地	室積コミュニティセンターをスタート・ゴールとし、萩の平やコバルト台地などを経由するウォークラリーイベント	55 人 (令和6年度)
みつい再発見 ウォーク	萩の平	晩秋に萩の平や冠山総合公園、砲台山を徒歩で巡るイベント	59 人 (令和5年度)

(4) 「市民の森」に関する市民意向

ア アンケート調査

「市民の森」のあり方の検討にあたり、「市民の森」の認知度や、市民がどのような森林づくりを望んでいるのかなどを把握するため、住民アンケート調査を行いました。

(ア) 調査の概要

調査対象	令和6年7月末時点で、住民基本台帳に記載されている住所が室積地区(牛島を除く。)又は光井地区の世帯から、無作為に抽出した1,000世帯
調査期間	令和6年8月19日～令和6年9月20日
回収状況	配布数 : 1,000 票 有効配布数① : 990 票 回収数② : 433 票 回収率 (②/①) : 約 43.7%

(イ) 調査結果

a 年間維持管理費の目標額

アンケートの回答を基に、農林水産省が示している「費用対効果分析マニュアル」の仮想市場法により、「市民の森」の年効果額（年間維持管理費の目標額）を算定したところ、4,360千円となりました。

この額は、「(2) 「市民の森」の主な施設」に示す、12か所の森の年間維持費の合計額6,690千円を下回っています。

b 「市民の森」の認知

回答者の過半数が「市民の森」に行ったことがある一方で、3割以上の方が「市民の森」を知らないと回答されており、「市民の森」の認知度は高くはないと考えられます。

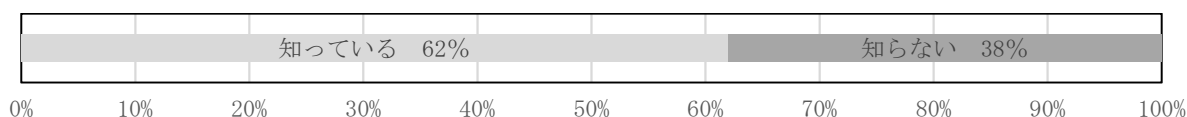


図-2 アンケート調査結果（「市民の森」の認知）

c 「市民の森」の利用

「市民の森」の中で行ったことがある場所は、『萩の平』と『コバルト台地』が最も多く、次いで『やすらぎの広場』、『野鳥の森』の順になっています。

「市民の森」へ行った目的としては、『ウォーキング・サイクリング・ドライブの休憩』が最も多く、2番目が『ウォーキング』、3番目が『森林浴』、『自然観察・昆虫採集』、『学校・地域行事』となっています。

また、訪問場所を選んだ理由としては、『見晴らしがよい』が最も多く、次いで『車が乗り入れられる』、『広いスペースがある』の順になっています。

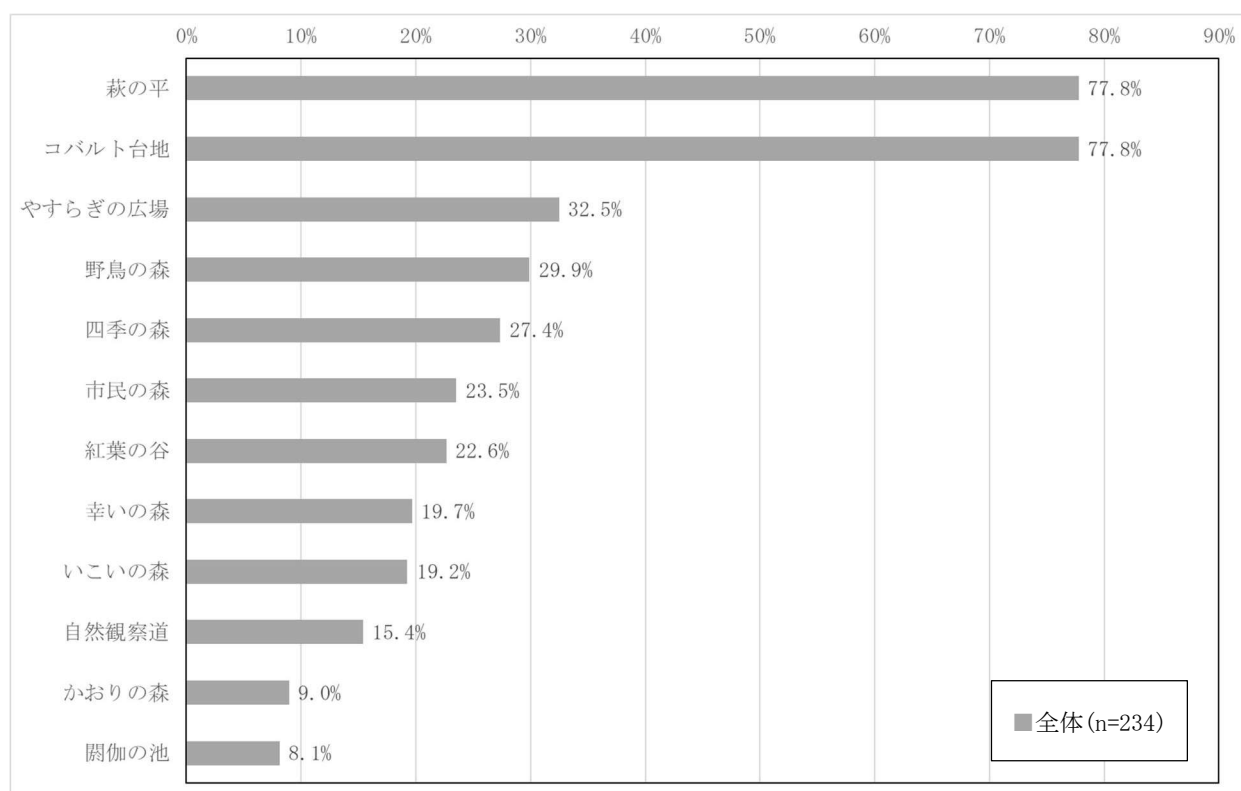


図-3 アンケート結果（利用場所（複数回答可））

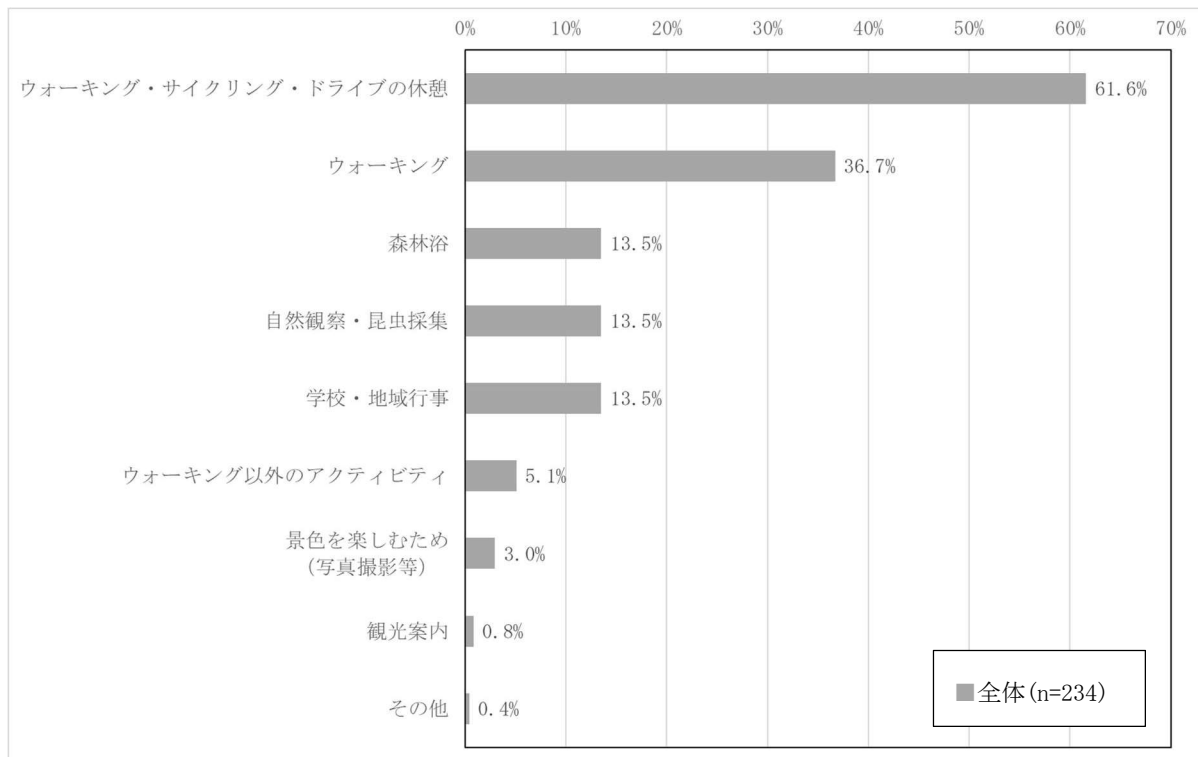


図-4 アンケート結果（利用目的（複数回答可））

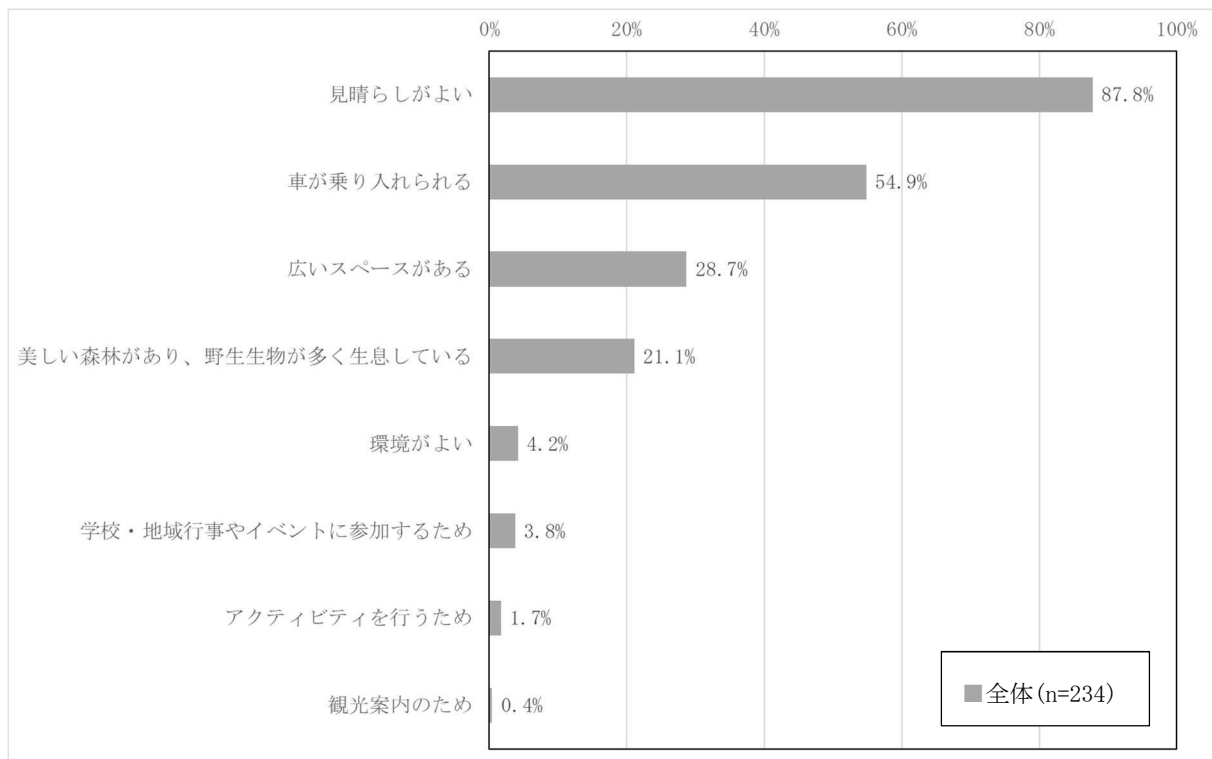


図-5 アンケート結果（利用場所選定理由（複数回答可））

d その他（自由記述）

自由記述欄では、『「市民の森」の必要性を感じない』との意見が12件と最も多く、次いで『12か所は多すぎるので、縮小や廃止を検討すべき』との意見が8件あり、自由記述欄の記載からも「市民の森」の見直しが求められていると考えられます。

表-4 アンケート結果（その他（自由記述））

内容	件数
市民の森の必要性を感じない	12
12か所は多すぎる。市民の森の縮小、または廃止を検討すべき	8
市民の利用比率が低い	7

※ 同様の内容の回答が5件以上のもののみを掲載

イ ヒアリング調査

「市民の森」を利用している団体がどのような森林づくりを望んでいるのかを把握するため、利用団体へのヒアリング調査を行いました。

（ア） 調査の概要

調査対象	光井コミュニティセンター 室積コミュニティセンター 山口県東部森林組合
調査時期	令和6年9月～令和6年10月

（イ） 調査結果

これまで、調査対象団体が開催したイベントでは、眺望が良く広い場所がある『萩の平』や『コバルト台地』がよく利用されてきました。

また、今後については、『萩の平』でイベントを実施したいため、見晴らしのよさを維持してほしい、『コバルト台地』からの見晴らしが悪くなっている、改善してほしい、「森林体験の場として活用できる

よう、広い場所を確保してほしい」との意見がありました。

表-5 ヒアリング結果整理表

	光井 コミュニティセンター	室積 コミュニティセンター	山口県 東部森林組合
イベント等	みつい再発見ウォーク など	コバルト探訪 ウォークラリー	—
利用場所	萩の平	萩の平、コバルト台地	—
選定理由	光井コミュニティセン ターから歩いて行く距 離がちょうど良く、光 市が一望できるため。	参加者の人数的に広い 場所が必要であり、景 色もよいため。	—
意見・ 要望等	今後、見晴らしがよい 萩の平でオリエンテー リングや宝探しを実施 してみたいので、見晴 らしのよさを維持して ほしい。	コバルト台地からの見 晴らしが悪くなってき ているため眺望を改善 してほしい。	多くの人に市民の 森が利用され、森 林に興味を持って もらえるとよい。 展望台からの眺望 確保や、森林体験 学習の場として活 用できるように、 広い場所を確保し てほしい。

3 課題

施設の現状のほか、アンケート調査やヒアリング調査での市民や利用団体の意向も踏まえ、「市民の森」の主な課題を次のように整理します。

(1) 規模及び維持管理の適正化

多くの施設が老朽化して更新期を迎える一方で、アンケート調査の回答から算定した年間維持管理費の目標額（4,360 千円）は 12 か所の森の年間維持費（6,690 千円）を下回りました。また、「必要性を感じない」、「縮小、廃止すべき」との意見が複数ありました。

さらに、利用頻度が極めて少ないと類推される森もあることから、将来にかけて保持すべき森を明確化して規模を適正化し、適切な維持管理を行っていく必要があります。

(2) 良好な眺望の確保

本市の貴重なビュースポットの一つである『萩の平』をはじめとする「市民の森」やコバルトラインの視点場からは美しい景色が望めます。

また、アンケート調査やヒアリング調査の結果から、『萩の平』や『コバルト台地』などからの見晴らしは好評を得ており、今後も一定のニーズがあると考えられることから、大きく成長して眺望を遮る樹木は適宜、修景伐採するなど、良好な眺望の確保に努める必要があります。

(3) 利活用の促進

「市民の森」を活用したイベントの参加者数は減少傾向にあり、市民共通の財産である「市民の森」が十分には活用されていない可能性があります。

また、アンケート調査では、約 38%の方が「市民の森」を知らないと回答されており、認知度は高くないと考えられることから、「市民の森」の有効活用に向けて、積極的な情報発信・PRに努める必要があります。

4 基本方針

(1) 基本的な方向性

ア 基本的な考え方

アンケート調査の回答から算定した年間維持管理費の目標額は、言わば『市民が「市民の森」の維持管理に投じてよいと考えている金額』であり、その額が「市民の森」の年間維持費を下回っています。また、年間維持費に加えて、将来にわたり良好な眺望を維持していくためには修景伐採費用が必要になることを考慮すると、現在の 12 か所の森を全て存続していくことは極めて困難です。

このため、選択と集中の観点から、見晴らしがよく駐車スペースがあるなど、今後も幅広い利活用が期待でき、かつ年間維持管理費の目標額を超えない額で、良好な眺望を確保しながら維持することができる森を、これからも保持する森として選定し、適切な維持管理のもと利活用を促進するとともに、その他の森については自然に還していくことを基本とします。

イ 基本的な方向性

保持する森の選定にあたり、12 か所の森を、機能や利用実績、年間維持費などから比較すると表-6 のとおりです。

相対的に評価が高い『萩の平』、『コバルト台地』及び『やすらぎの広場』の 3 か所を、修景伐採による良好な眺望確保を図りながら維持していくために必要となる費用の合計は年間約 3,770 千円となり、年間維持管理費の目標額（4,360 千円）の範囲に収まります。これより、『萩の平』、『コバルト台地』及び『やすらぎの広場』の 3 か所の森を、今後も「市民の森」として保持することとし、適切に維持管理するとともに、SNS 等を活用した積極的な情報発信などにより、利活用を促進します。

また、その他の 9 か所の森については、令和 8 年度に「市民の森」としての位置付けを廃止し、老朽化した施設等は順次撤去して、自然に還していくこととします。

表-6 「市民の森」比較表

		四季の森	紅葉の谷	萩の平	自然観察道	市民の森	幸いの森	野鳥の森	関伽の池	やすらぎの広場	コバルト台地	いこいの森	かおりの森
機能	見晴らし			◎		○	○	△		◎	◎	△	△
	車での利用			◎		○				○	◎		◎
利用実績				◎		△	△			○	◎		
年間維持費 (千円/年)		490	400	1,590	650	470	450	960	80	400	880	260	60
修景伐採費		1 か所あたり年平均 300 千円程度											

(2) 今後の予定

令和7年度後半から、これからの「市民の森」のあり方について、ウェブサイトへの掲載や、現地へのお知らせ文の掲示などを通じて、市民や利用者などに幅広く周知します。その後、令和8年度から、案内板や老朽化した施設の撤去などを順次行います。

また、並行して、市民共通の財産である「市民の森」の認知度を高めて利活用を促進するために、関係機関や団体と連携し、ウェブサイトやSNS等を活用した情報発信を積極的に行うなど、市民やツーリストに向けた幅広いPRに努めます。

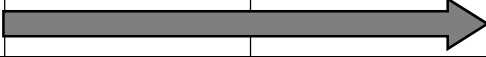
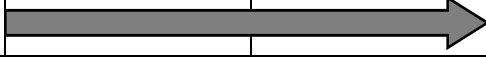
	令和7年度	令和8年度	令和9年度以降
今後のあり方の周知			
案内板の撤去・修正			
老朽化した施設等の撤去			
維持管理(修景伐採等を含む)			
PR活動			

図-6 今後の予定